

## 二級河川大河原川水系河川整備計画地元懇談会 議事要旨

日 時：令和元年10月31日（木）14：00～16：00

場 所：サンボル尾道 会議室1

出席者：（委 員）：9名

（以下○：委員意見）

（事務局）：東部建設事務所 三原支所技術次長 他

（以下●：事務局発言）

### 議事

#### 議事 1) 資料-5.1 大河原川水系河川整備計画\_素案説明資料

・事務局より資料による説明

（主な質疑）

- ポンプの排水量が  $2\text{ m}^3/\text{s}$  となるが、雨量としてはどれぐらいの量なのか？
- 潮位が低ければ、流量が大きくても流れるが、潮位が高ければ水門を閉じてポンプを動かさないといけないため、一概には言えない。平成10年10月洪水は、潮位が高い時と流量のピークが重なったもので、被害が大きかったので、今はその対応を考えている。
- 今後のハード的対策のビジョンがあれば教えてほしい。
- H30.7洪水やH31台風19号(関東)を踏まえて、想定外の洪水も考慮し、県管理河川の整備方法を含めて、ハード、ソフト対策について検討中である。
- 河川周辺に家が建っている。命は助かっても住宅が使えない。今後の都市計画は、洪水に対して、どう街づくりをしていくかを考えてほしい。
- 大河原川が氾濫するのはどれぐらいの雨となるのか？
- 1時間雨量 約30mm、累加雨量 約160mm（H10年10月洪水）の降雨があれば、床下浸水が発生しており、これぐらいの雨量では浸水する恐れがある。ただし、潮位の影響にもよってくる。
- H30年7月洪水では28mmでも氾濫している。大河原川の氾濫ではなく、内水氾濫がこの地区一番の問題となる。H30.7ではサンボルに避難できなかった。ひざ下まで前の道路が浸かっていた。内水氾濫の対策が最優先である。
- 尾道市と協力して、仮設のポンプを設定するようにしている。

- 移動式の簡易ポンプであり、満潮の時期だと効果が期待できない。山水を大河原川ではなく、矢立川（入川）へ排水するのがいいのではないか？ 昨年、要望書を尾道市へは提出した。
- 内水についても、尾道市と引き続き協議を進めていく。
- 資料 5-1 の基本方針の意味が分からないので教えてほしい。
- 河川整備計画の策定の前に河川の将来的なあるべき姿を定めたものが河川整備基本方針である。大河原川の場合、30年に1回起こるような確率の流量を目標として、17m<sup>3</sup>/sとなっている。
- 県と市の河川のバランスよく整備してもらわないと、整備しても効果が無くなると困る。農協の前の水路に水が流れ出ないため浸水する。農協の前の河川は、以前は病院（外科）の前まで川があった。また、水田や塩田などもあり、洪水の貯水池となっていた。大きい大局的な河川整備も要るが、日常生活に伴う内水処理についても県と市が連携をとりつつ、しっかりしてほしい。
- 住民には、外水、内水は関係ない。今後とも、尾道市と協議を進めていきます。

## 議事 2) 資料—5.3 大河原川アンケート概要

- ・事務局より資料による説明

(主な質疑)

なし